

DX推進実態調査2025

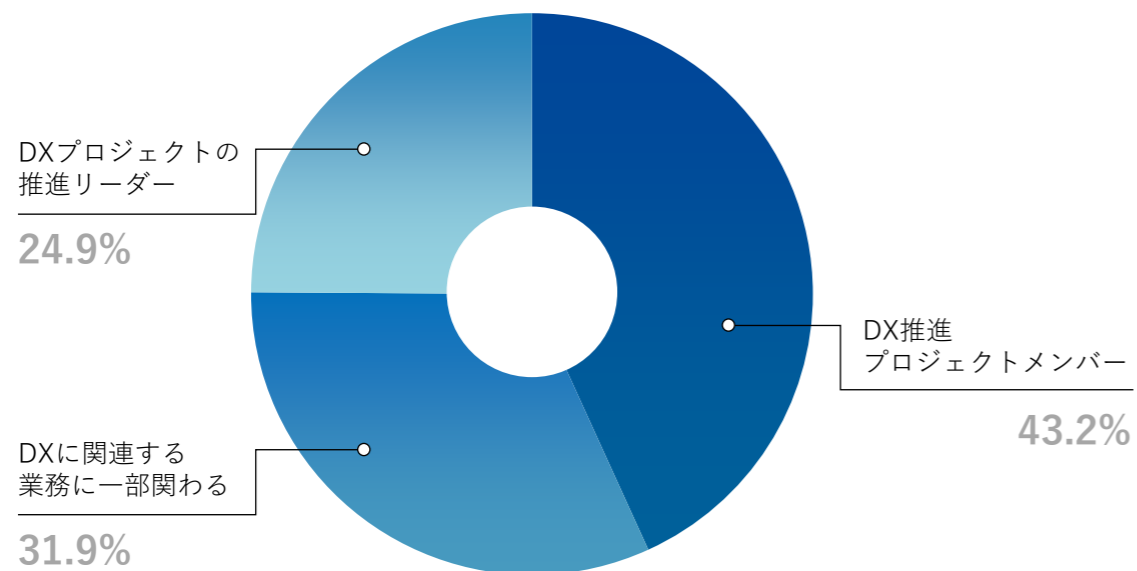
現場が求める
実践的アプローチ
とは？



はじめに

企業の競争力を左右する要素として「DX（デジタルトランスフォーメーション）」が注目されて久しい一方で、現場レベルでの推進状況や成果は企業ごとに大きな差が生じています。中には、他社の取り組みと自社の取り組みを比較してみたいと思うご担当者様もいるのではないのでしょうか。本ホワイトペーパーでは、企業のDX推進に関する最新の実態を明らかにするため、**DX推進に携わる（携わったことのある）285名へのアンケート調査※の結果を基に、取り組みの進捗状況、課題、活用したいツールなどをおまとめしています。**これからDXを本格的に進めたいと考えている方や、現状の取り組みに課題を感じている方にとって、他社の動向や現場のリアルな声は大きなヒントになるはずです。ぜひ参考にしてみてください。（※弊社実施のインターネット調査：企業に在籍する285名の男女を対象に2025年5月実施）

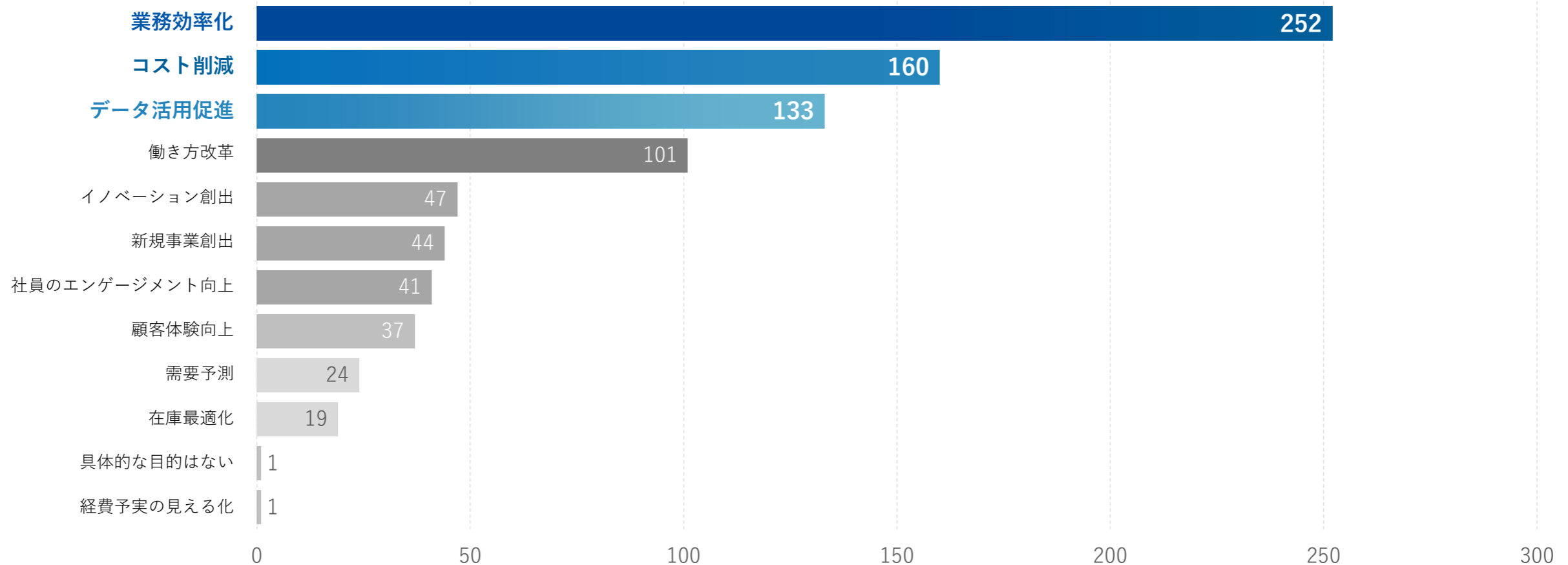
回答者のDX推進時のお立場



CONTENTS

はじめに	P2
DX推進の主な目的は何ですか（何でしたか）？	P3
DX推進の期間と規模を教えてください	P4
DXを推進する部署はどこですか？現在の推進状況も教えてください	P5
DXを推進する上での課題や協力を得られにくい関係者を教えてください	P6
DX推進における障害と活用したいツールを教えてください	P7
ツール選定時のポイント/苦労したことを教えてください	P8
DXを推進する際外部ベンダーに求めたいことはなんですか？	P9
DX推進ならパナソニック デジタル株式会社にご相談ください	P10

DX推進の主な目的は何ですか（何でしたか）？（複数選択）

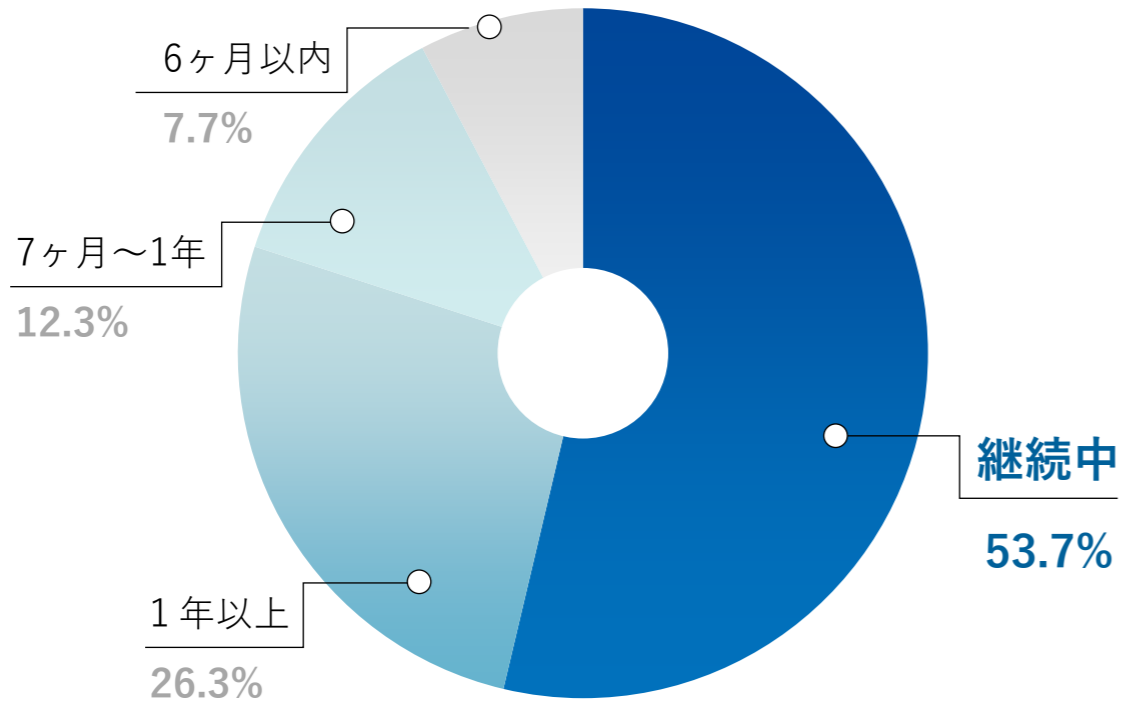


DX推進の主な目的は業務効率化が最も多く、次いでコスト削減、データ活用促進と続いていました。いずれも日々の業務改善やコスト圧縮、従業員の生産性向上に直結する取り組みであり、DXが経営課題の解決手段として捉えられていることがうかがえます。一方で、「イノベーション創出」や「新規事業創出」などの攻めのDXはやや少数という結果となりました。

現時点では多くの企業が足元の業務改善を優先している傾向が見て取れる

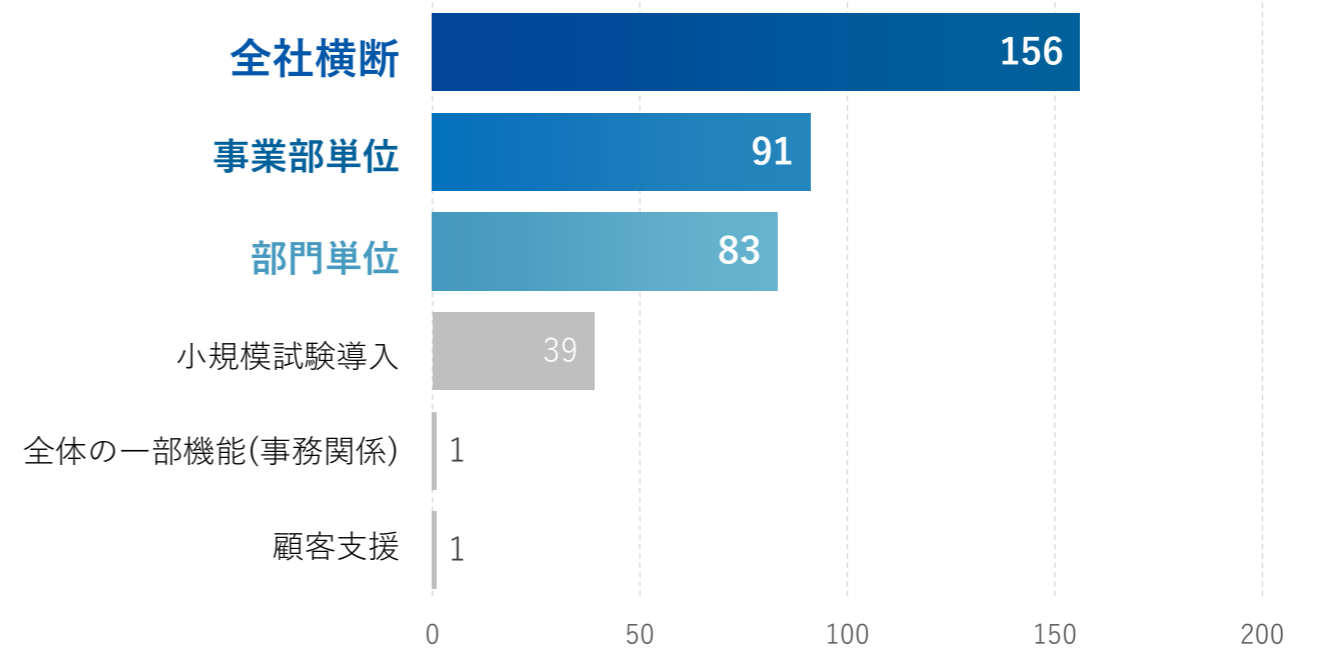
DX推進の期間と規模を教えてください

過去に実施したDX推進の期間（単一回答）



現在DX推進が進行中であるという回答が半数以上あり、26.3%が1年以上、12.3%が半年以上かかったと回答しています。、DXが一時的な取り組みにとどまらず、中長期的に推進されていることが伺えます。

DX推進プロジェクトの規模（複数選択）

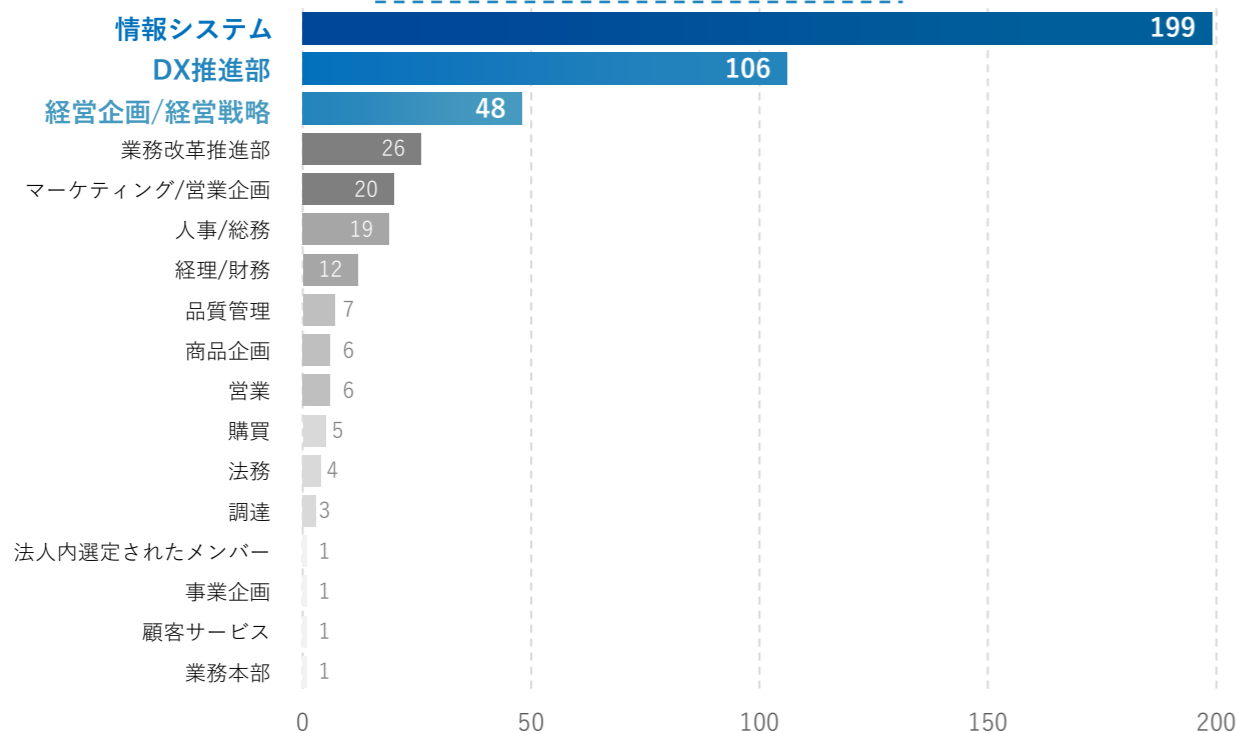


全社横断でDX推進プロジェクトに取り組んでいるという回答が最も多くトップダウンでの意思決定や、部門連携の必要性を認識している企業が増えている傾向がありそうです。

DXは長期的プロジェクトかつ経営戦略の中核として位置づけられている

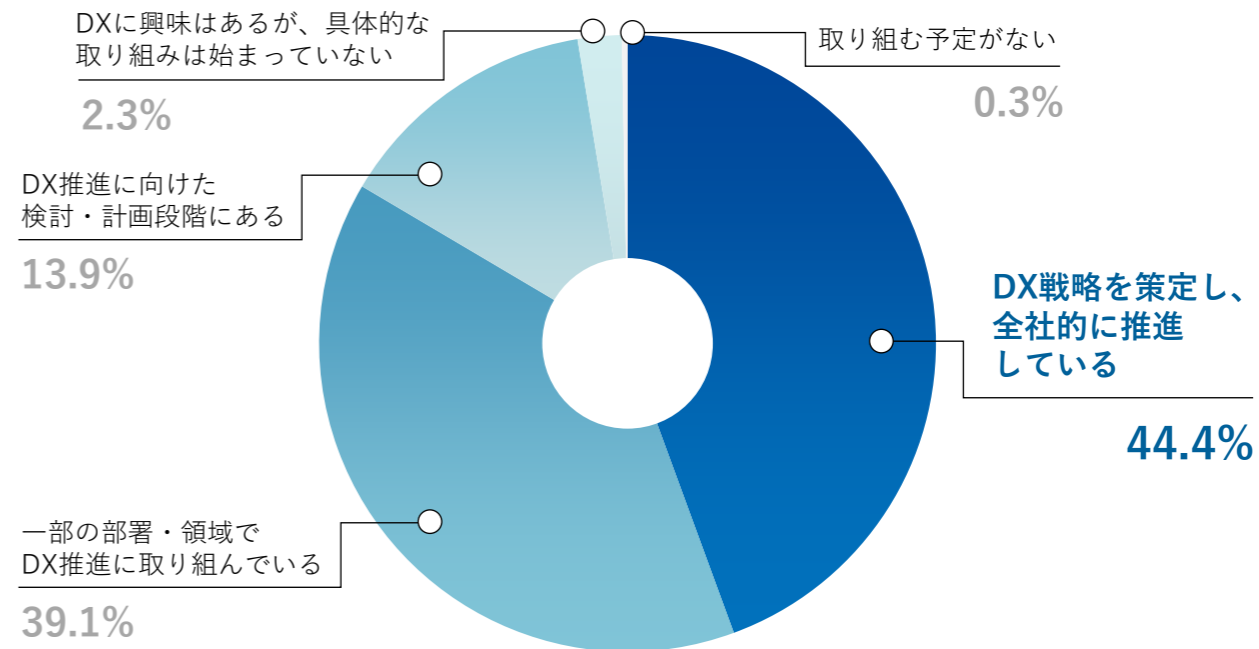
DXを推進する部署はどこですか？現在の推進状況も教えてください

DX推進部署（複数選択）



最も多かったのは「情報システム部門」であり、全体の中心的な担い手となっていることが明確です。次いで「DX推進部」が多く、DX専門の専任部門を設置している企業も増えていることがわかります。一方で、「人事・総務」「マーケティング」「営業」など現場部門の関与は比較的少なく、依然としてIT部門中心で進められている傾向が強いことが読み取れます

DX推進状況（単一回答）

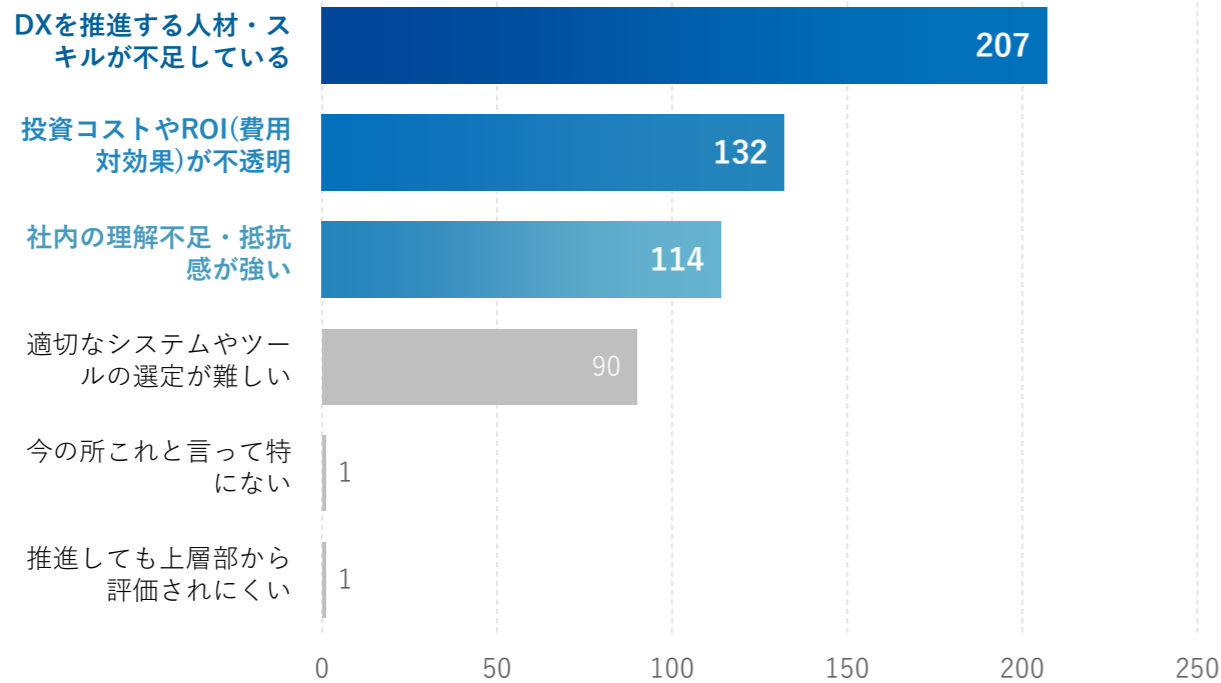


DXを明確な経営戦略として位置づけている企業が4割を超えていることがわかります。一方で、部分的な導入にとどまっている企業も依然として多い状況です。また、約2割の企業が未着手または計画段階にあることになり、企業間でDXの進捗度に差があることが浮き彫りとなっています。

DXを全社的に推進している企業が増える一方、主導するのは依然として情報システム部門が中心

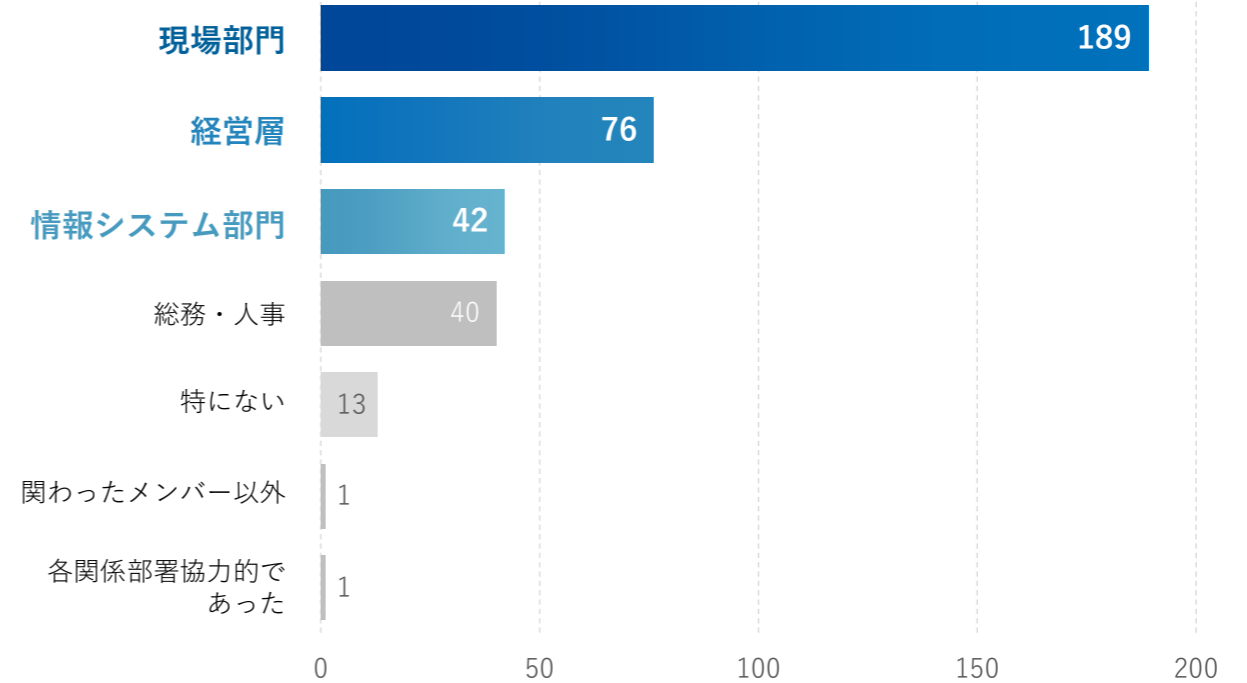
DXを推進する上での課題や協力を得られにくい関係者を教えてください

DX推進における課題（複数選択）



このグラフからは、DX推進の最大の障壁として「人材・スキルの不足」が圧倒的に多く挙げられていることがわかります（215件）。次いで「ROIの不透明さ」や「社内理解・抵抗感」といった、組織内外の調整や判断の難しさが課題となっています。

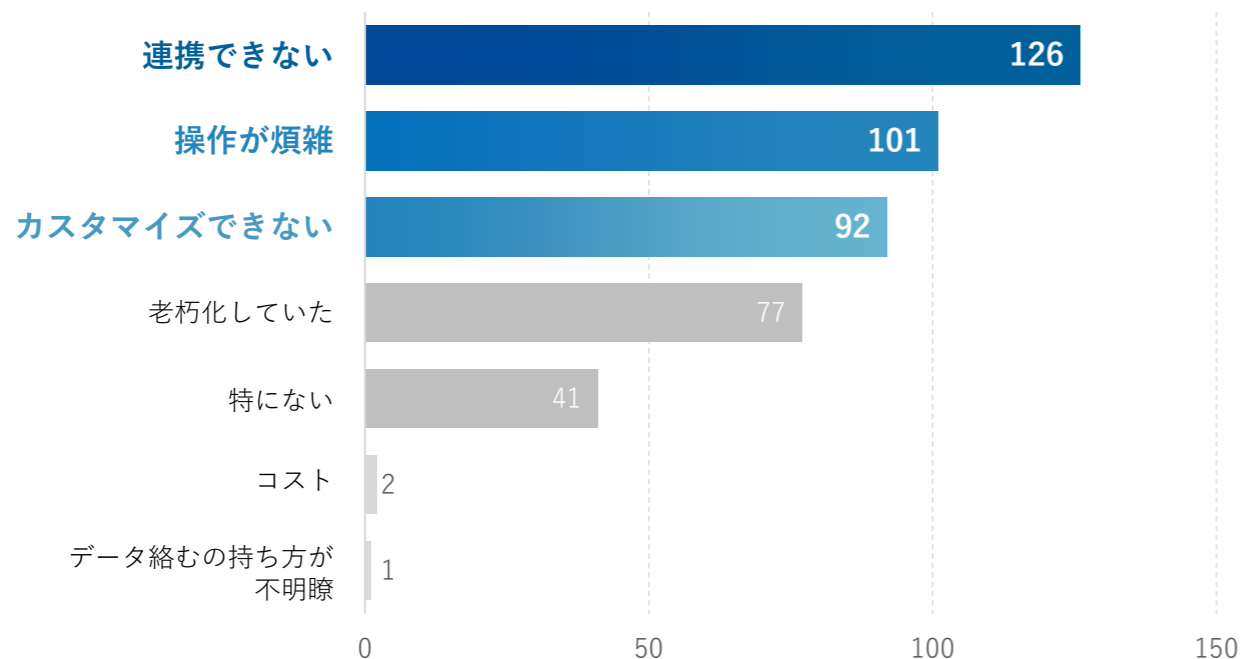
DX推進にて協力を得られにくかった関係者（複数選択）



協力を得られにくいのは、現場部門という回答が最も多い結果になりました。実務レベルでの運用変更や新システム対応など、現場を巻き込んだ支援体制やコミュニケーションの重要性が浮き彫りとなっています。

技術以前に人材不足や現場の協力体制構築の壁に直面している企業が多い

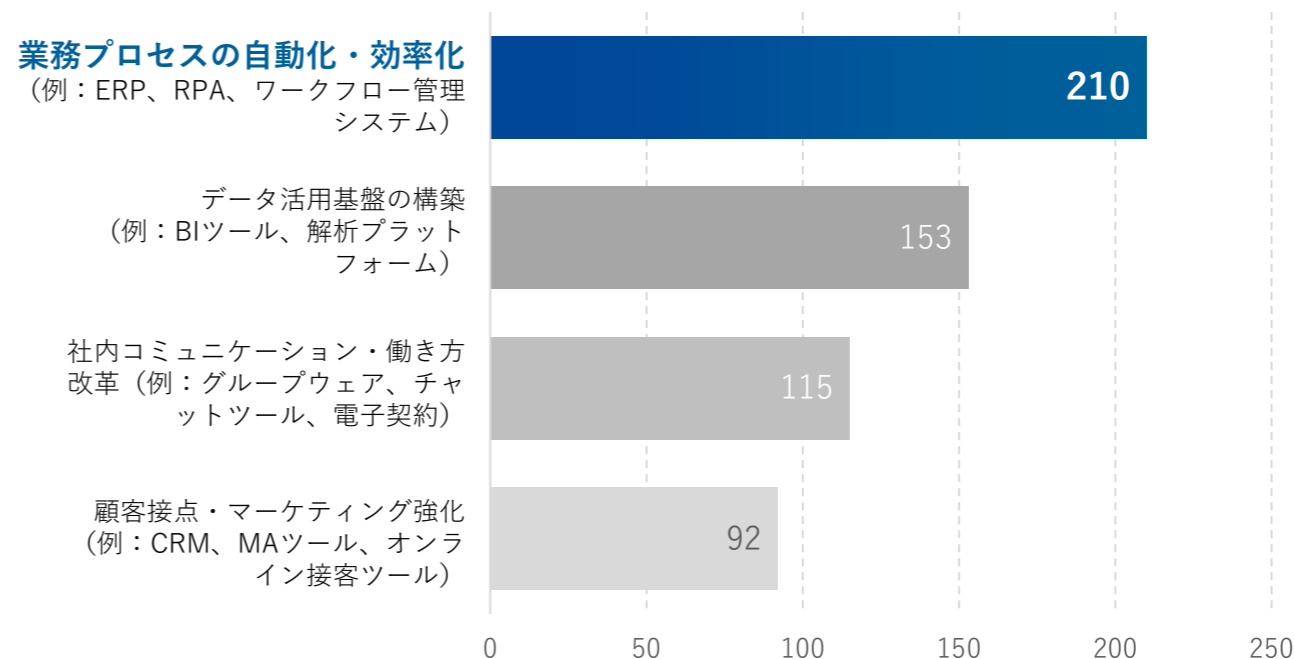
既存業務システムやツールについて、 障害となっている/障害となりうる(なった)点を 教えてください (複数選択)



最も多く挙げられた課題は「連携できない」でした。異なるシステム間でデータを連携できないことで業務の断絶や二重入力が発生し、DXの推進に大きな支障をきたしていることを示しています。次いで多いのは「操作が煩雑」であり、ユーザビリティの低さが現場での定着や活用を阻害していると考えられます。

**技術的、運用的障壁を解決できるツール
が求められる**

DX推進にあたり活用したい ツールはなんですか？ (複数選択)

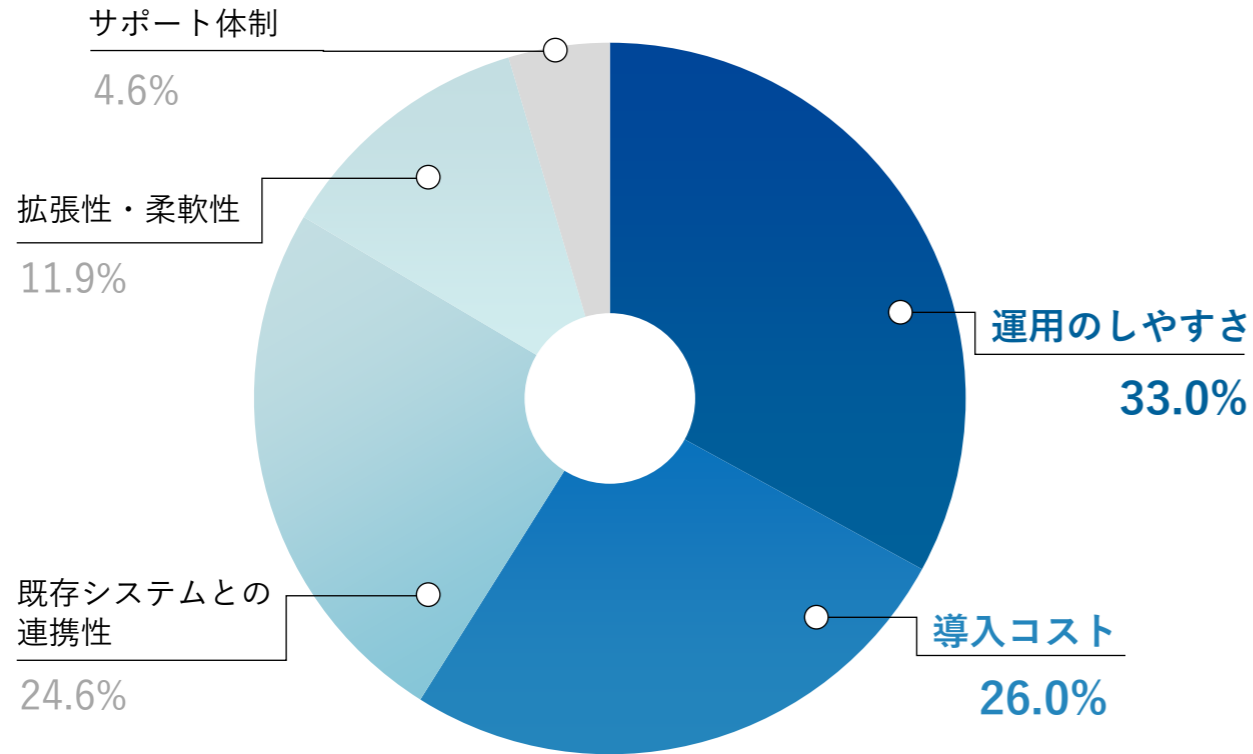


「業務プロセスの自動化・効率化」が最も多く、ERP、RPA、ワークフロー管理システムなどの導入によって、日々の業務の負担を軽減し、生産性を高めることが多くの企業にとって最優事項であることがわかります。

**業務効率化を実現する
業務プロセス自動化ツールのニーズが多い**

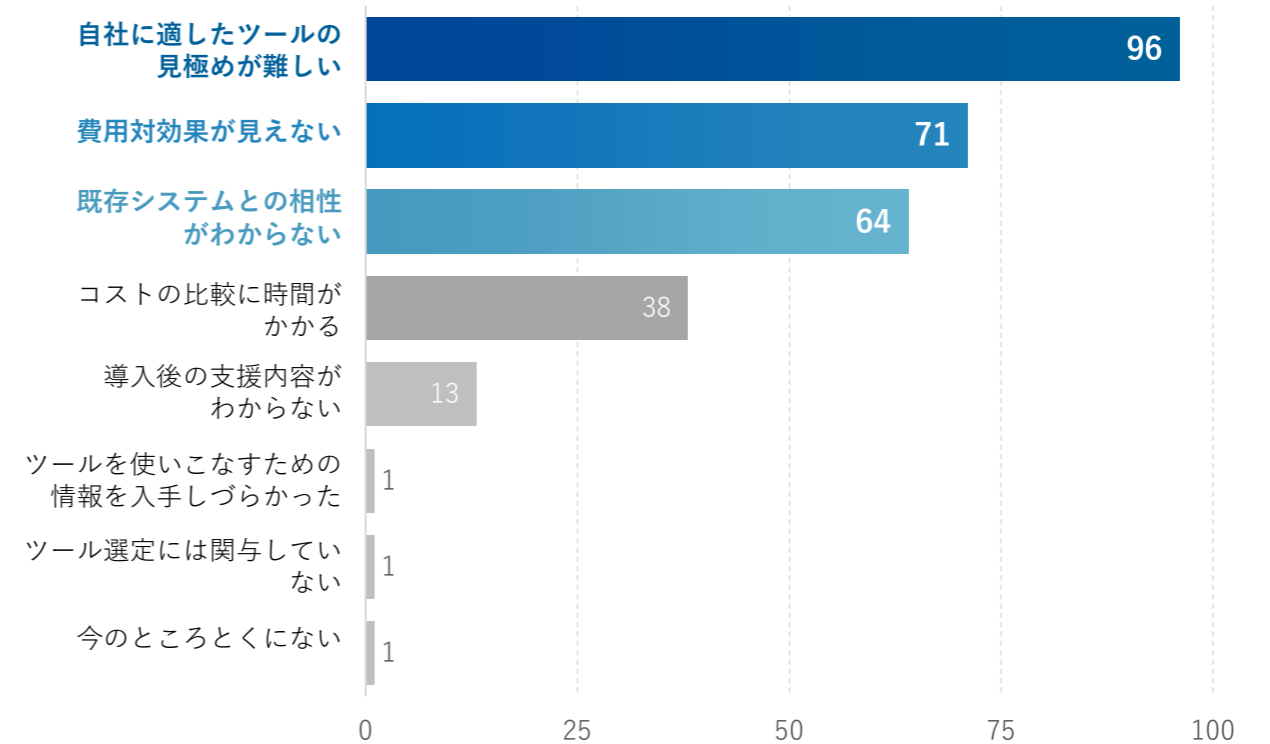
ツール選定時のポイント/苦勞したことを教えてください

DXツール選定時のポイント（単一回答）



ツール選定時は運用のしやすさが最もポイントとして重視されており次いで、コストのチェックも重要視されていることがわかりました。また、既存システムとの連携が可能かどうかも選定時のポイントとなっています。

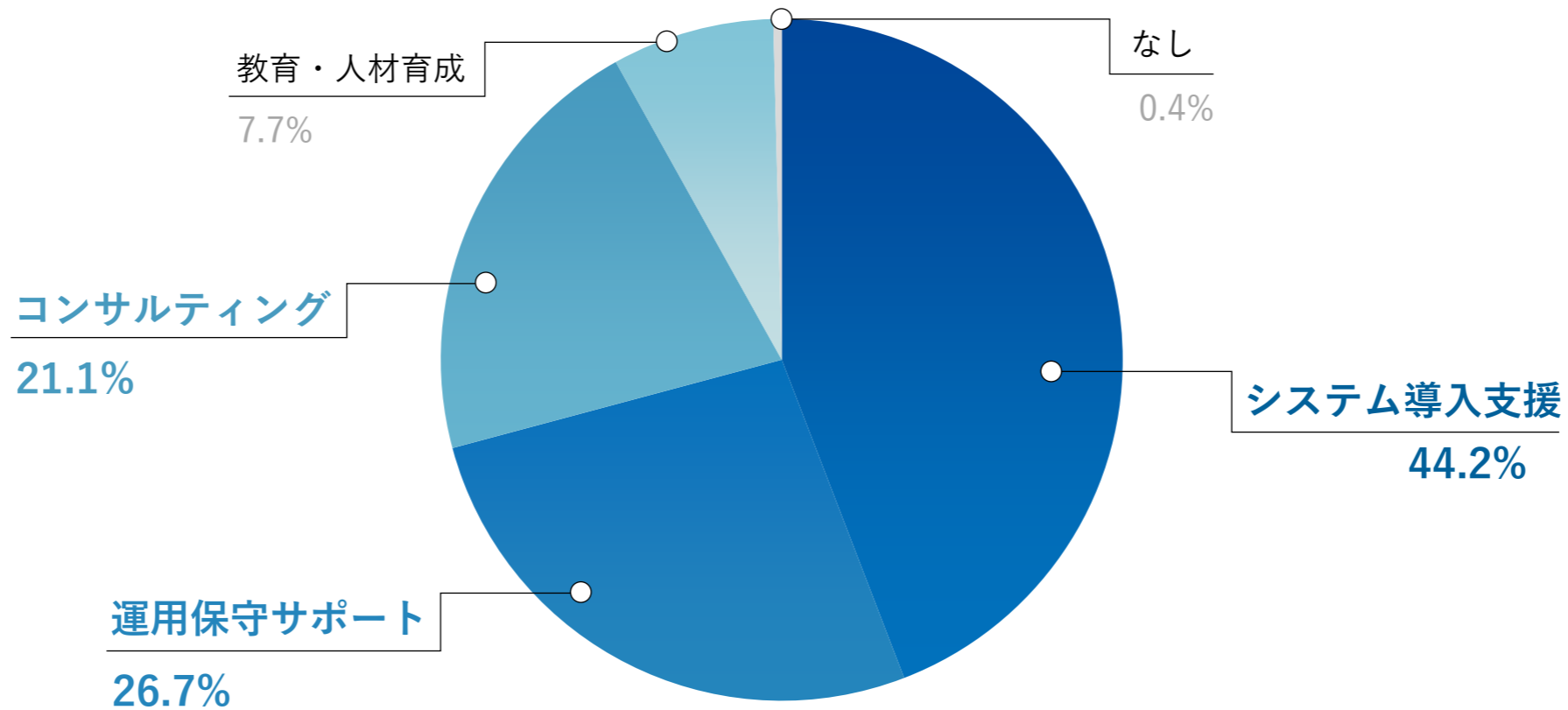
DXツール選定時の苦勞（複数選択）



自社に適したツールかどうかを見極めるのに苦勞するケースが多くみられるようです。その上、費用対効果や既存システムとの互換性がわかりにくいという回答も目立ち、DX推進時の課題として感じているケースが多い傾向にあります。

ツールはスムーズかつ導入後も**運用しやすいものを簡単に探せる環境**が求められる

DXを推進する際外部ベンダーに求めたいことはなんですか？（単一回答）



最も多かったのは「システム導入支援」であり、企業はDX推進にあたり、技術的な仕組みを自社だけで構築することに限界を感じており、導入段階から専門的な支援を強く求めていることが分かります。次に多かったのは「運用保守サポート」となり、導入後の安定稼働やトラブル対応まで含めて長期的な支援を期待している傾向が見られます。「コンサルティング」（21.1%）も一定の割合を占めており、戦略立案や課題の整理といった上流工程への支援ニーズも高いことが伺えます。一方、「教育・人材育成」は7.7%にとどまり、現時点では内製化よりも外部依存傾向が強いことが示唆されます。

全体として、**DXの導入・運用までの一貫した伴走支援**を外部ベンダーに期待している

DX推進ならパナソニック デジタル株式会社にご相談ください

調査の結果、DX推進が中長期的かつ経営課題を解決するためのプロジェクトとして位置付けている企業が多くなってきていることがわかりました。一方で、DX推進をしたいものの「**技術以前に人材不足やツールの選定時の苦労を払拭できない**」という問題を解決できない企業も多く存在します。パナソニック デジタル株式会社では、DX推進をサポートするツールを幅広く取り扱っているのはもちろん、伴走支援を実施することで企業のDX推進をサポートしております。DX推進においてお困りごとがある場合には、ぜひお気軽にお申しつけくださいませ。

DX推進に関して以下にあてはまる場合にはぜひご相談ください

- ✓ ツール選定に困っている
- ✓ 既存システムとの連携がDX推進のボトルネックになっている
- ✓ DX推進を手厚いサポートで支援してほしい

[DX推進支援ツール一覧を見る](#)

[お問い合わせはこちら](#)



ご連絡先

パナソニック デジタル株式会社

大阪本社 TEL：06-6906-2801 住所：〒530-0053 大阪府大阪市北区末広町2番40号 Panasonic XC OSAKA

東京本社 TEL：03-5148-5634 住所：〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目21番1号 住友不動産汐留浜離宮ビル23階

Panasonic